

時刻	次第・発言者	発言内容
15:00	<開会行事> 進行(黒木総括)	開会の言葉
15:01	<開会挨拶> 矢野課長	開会の挨拶(内容省略)
15:04	黒木総括  社会福祉法人北杜 佐々木氏	秋田県の社会福祉法人北杜からの視察者紹介  視察者一言(内容省略)
15:05	黒木総括	本会議の日程説明及び座長への会議進行引継ぎ
15:06	岡田座長	本会議の進行予定説明
15:08	事務局	<p>○地域連携コンソーシアム会議について</p> <p>第1回会議は6月9日に開催。昨年度の成果と今年度の事業内容を説明。</p> <p>第2回会議は10月14日に開催。今年度の進捗報告とおおいたユニバーサルカレッジの視察が行われる。</p> <p>第3回会議は2月に開催予定。</p> <p>○実践交流会「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」</p> <p>1月24日(土)に大分県立図書館視聴覚ホールで開催予定。</p> <p>内容：オープニング、基調講演、事例発表、座談会が予定されている。</p> <p>目的：学びの場づくりに関する好事例の共有、障がい者の生涯学習に関する研究協議等を通じた障がい理解促進と学びの場の充実を目指す。</p> <p>テーマ：昨年度は「学びを届けるために」、今年度は「学びを広げるために」を検討中である。オピニオンシートで意見を募集し、委員の参加も促す。</p> <p>○障害平等研修</p> <p>昨年度は県内で1回実施されたが、今年度から3年計画で毎年県内2教育事務所管内で開催される。</p> <p>本年度は中津市教育福祉センターとアストくにさきで実施された。</p> <p>講師：一般社団法人 Diversity&amp;Inclusion の石川明代氏ら6名を招き、ワークショップ形式で意見交換を行った。</p> <p>参加者の感想：「障がいとは何かを改めて考える良い機会になった」「障がいへの意識や配慮を見直すきっかけになった」など肯定的な意見が多かった。</p> <p>○専用ウェブサイト『かたろうえ大分』アクセス状況</p> <p>アクセス数：令和6年度の1日平均は23.1人、令和7年度は21.8人でやや減少傾向にあるが、安定した利用が継続している。</p> <p>傾向分析：継続的な情報更新がアクセスに繋がり、リピーターの定着に寄与している。</p>

今後の展望と課題：ユーザー層の分析を行い、未到達層へのアプローチ、サイトの利便性向上、コンテンツの充実が求められる。

○学びの機会・プログラム創出及び全県的拡大

〈大分大学生涯学習講座〉

大分大学マネジメント機構基盤教育センターが主体となり、11月23日から12月13日の日曜日に全4回の講座を実施する予定である。大学の施設・資源を活用し、参加者のニーズに応じた講座を提供することを目指す。

〈モデル公民館と図書館〉

・中津市（三光コミュニティセンター、まなびん館）：年間8回、「まなびば」を中心に料理や運動系の講座を実施。新規受講者への配慮や熱中症対策も行われた。

・国東市（武蔵西地区公民館、三角ベース）：全5回実施予定。竹鈴づくりなどの出前講座が好評で、参加者の自信に繋がった。今後は卓球バレーや3B体操も予定されている。

・杵築市（市立図書館）：第1回、第2回は施設利用者を対象に出張図書館を実施。大型絵本や紙芝居の読み聞かせが中心で、利用者の期待感も高かった。今後はバリアフリー映画上映会や工作教室を予定している。

・豊後大野市（「ひょうたんカレッジ」）：8月から12月にかけて全5回を予定し、料理、コミュニケーション学習、絵手紙、ピラティスなど幅広い内容を提供。特にコミュニケーション学習は2回実施される。参加者の積極的な取り組みが見られたが、アレルギー対応や事前準備の課題も明らかになった。

・由布市（庄内公民館「ゆふぽきらきら教室」）：7月から12月にかけて全5回を予定し、ポッチャ、夏祭り、料理、絵手紙など多様な活動を行う。由布市のジュニアリーダー（中高生）がスタッフとして参加し、世代間交流も生まれている。

・日田市内公民館：11月から1月にかけて全4回を予定し、ウォーキング、登山、料理など親しみやすい活動を行う予定である。

〈県立の社会教育施設での取り組み〉

香々地青少年の家、九重青少年の家を活用。

第1回香々地のワンデイキャンプは10月20日に実施予定。交通費支給の課題があるものの、バス借上げが不要な団体には参加を促している。昨年度から継続して利用したいという声も上がっている。

〈特別支援学校の出前講座〉

趣旨：障がい者の生涯学習推進の一環として、特別支援学校高等部3年生とその保護者を対象に、卒業後の学びや体験の機会を提供する。

実施概要：令和7年度中に各校1回開催。県の社会教育主事、指導主事、県社会福祉協議会講師らが講師を務める。

プログラム内容：ワークショップ（「好きなこと」「やってみたいこと」をテーマに地域の活動を紹介）、体験活動（創作系、運動系）。保護者向けのプログラムも用意する。

進捗状況：今年度はモデル公民館・図書館を実施している地域の学校を中心に6校で実施予定。卒業後の学びや余暇活動に繋がることを期待している。

15 : 26	ヨカたの 松尾代表	<p>今後の予定：12月以降に対象校と日程調整し、順次実施する。</p> <p>○おおいたユニバーサルカレッジの取り組み</p> <p>主な活動：OUC、公民館講座の募集、出前講座（大分市内、別府の支援学校が対象）、支援学校の同窓会への参加を通じた参加者募集。</p> <p>現状：参加者は増加傾向にある。</p> <p>成果と課題：社会教育への移行やサードプレイス的な活動が定着しつつあるが、利用者の増加が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活に役立つ内容（ハロウィン、茶道体験など）を提供している。</li> <li>・広報啓発活動として「OUCだより」を配布し、認知度向上に努めている。</li> <li>・目標参加者数は10名だが、現状はそれを下回っている。一度参加すれば定着する傾向にあるため、参加を促す工夫が必要である。</li> </ul> <p>今後の展望：公民館講座や高等部3年生向けの出前講座を強化し、OUCの参加者増を目指す。</p>
15 : 32	岡田座長	<p>質疑応答・意見交換をお願いしたい。</p>
15 : 33	高橋委員  事務局  岡田座長	<p>今年度の途中経過でもよいので、各モデル事業の参加者数について教えて欲しい。</p> <p>正確な数字は難しいが、各モデル事業の参加者数を報告する。</p> <p>中津市の公民館講座：全8回全て参加可能な者を募集し、結果10名。</p> <p>国東市の公民館講座：出前講座は20～25名程度。</p> <p>豊後大野市のひょうたんカレッジ：初回10名程度、以降も10～20名程度。</p> <p>杵築市の図書館：出張図書館は初回50名、2回目20名程度。</p> <p>由布市のゆふぽきらきら教室：初回50名、以降30名程度。</p> <p>日田市内の公民館：これから実施予定で20名程度を見込んでいる。</p> <p>大分大学、まだ未実施のため、今後参加者を募っていく。</p> <p>続いて、提供側の視点からの課題と展望について、協議頂きたい。</p> <p>自分としては、</p> <p>提供者側同士の連携不足：各事業が個別に実施されており、連携が不十分である。大分大学とあすびあのような連携や、教員と公民館講師の交流を増やす必要がある。</p> <p>日常的な学びの場の定着：ユニバーサルカレッジのように日常的な場が重要である。大分大学の教員や学生ボランティアの関与も検討すべきである。</p> <p>と考えている。</p> <p>県立図書館の読書バリアフリーの周知不足：視覚障がい者向けの図書貸出（大活字本、読み上げ電子書籍等）や宅配サービスがあるが、利用が伸び悩ん</p>
15 : 41	馬場委員	

	岡田座長	<p>でいる。広報不足や市町村図書館での予算の問題が課題である。</p> <p>県立図書館に行かなくても、自分の町の図書館でも利用できることを知っていただくというあたりが課題だろうと思う。</p> <p>次に、受講者側の視点からの課題と展望について、協議頂きたい。</p> <p>○大分大学生涯学習講座の取り組みと課題 〈プログラム内容〉</p> <p>生涯スポーツとして有効な「ピククルボール」を導入し、手軽に始められる工夫を凝らした。コミュニケーションを重視し、継続性を促す狙いがある。</p> <p>行動範囲が限定されがちな受講者のために、大学バスをチャーターしたバスツアーを計画し、新たな体験を提供することを目指す。</p> <p>〈現状と課題〉</p> <p>講座は年間でわずか4回程度と少なく、日常的な学びの機会を提供するまでには至っていない。</p> <p>将来的に文部科学省の委託事業を離れても自律的に運営できる仕組みの構築が求められる。</p> <p>障がいの有無に関わらず誰もが参加できるプログラムを開発し、当たり前のように実施できる体制を整える必要がある。</p>
15 : 46	馬場委員	<p>○県立図書館からの意見と課題 〈読書バリアフリーの利用促進〉</p> <p>大活字本や読み上げ機能付き電子書籍などのバリアフリー資料貸し出しがあるが、利用が伸び悩んでいる。</p> <p>読みたい本が十分に提供されていないことが一因と考える。資料の単価が高く、市町村立図書館での購入が困難な実情もある。</p> <p>今後は、利用者が必要とする講座や資料を民間も含めてどう提供し、希望者へ適切に情報伝達できるかが課題である。</p>
	岡田座長	<p>他に意見・提案はないか。</p>
	池上委員	<p>○NPO 法人自立支援センターおおいたからの意見 〈情報発信と連携の強化〉</p> <p>9月末に「インクルーシブボウリング大会」を開催し、障がい者、健常者合わせて約30名が参加した。</p> <p>SNS等での告知を行ったが、周知不足により参加できなかった人もいた。</p> <p>生涯教育や社会参加を促進するためには、個人の繋がりや声かけ、情報発信の強化が必要である。</p> <p>「かたろうえ」のような共通プラットフォームの活用や、各取り組みに合ったメディア戦略の共有が望まれる。</p>
	岡田座長	<p>池上氏のインクルーシブボウリングの事例を受け、魅力的なプログラムであっても情報発信には課題があるとの認識が示された。</p>



	石川委員	<p>ある。高橋先生の指摘を受け、今後はより積極的にコラボレーションを取り入れ、取り組みを推進していきたいという意欲が示された。</p> <p>〈地域の実情に応じた作戦の必要性〉</p> <p>青少年の家の事例のように、事前に多機関（障がい福祉、自立支援協議会など）が集まり作戦を練ることで、地域の実情に応じた効果的な取り組みが生まれる。</p> <p>大分市のような都市部では、地域のネットワークの核となる人物との連携も重要となる。</p> <p>障がい福祉と教育が協力し、プログラムありきではなく、ニーズに基づいた居場所づくりや交流の機会を増やすことが、新しい機能を持つ魅力的な活動につながる。</p>
15 : 59	岡田委員	<p>大分市のような地域コミュニティでは、ネットワークの核となるキーパーソンが存在する。彼らは多くの人々と繋がっており、その繋がりを活かすことが重要である。キーパーソンと協力し、そのネットワークを通じて適切な人々に情報を届けたり、活動への参加を促したりすることが効果的である。</p>
16 : 00	黒木総括	<p>岡田座長への進行のお礼</p>
	矢野課長	<p>閉会の挨拶（内容省略）</p>

<意見・提案のまとめ>

- ・講座プログラムの提供者側同士の連携の仕組みづくりをするとよい
- ・（県立図書館）読書バリアフリー図書館の資料貸出がまだ不十分、県内に周知したい
- ・障がいの有無にとらわれず一緒に受けられるようなプログラムをどのように作って、当たり前になれる体制を作っていけるということも課題として考えていきたい
- ・生涯教育や社会参加という視点で考えたら、一人一人のつながりや声掛けが必要
- ・自宅から職場の往復だけではなくて、その帰り道に何か寄れる場所、居場所を作っていきながら、そこでの取組を利用者の方々が調査できて、そこに参加できるというような仕組み作りができるのが理想的。
- ・公民館と福祉事業所や、放課後児童クラブ、自立支援協議会、青少年団体との連携も効果的。
- ・青少年の家での講座は、事前に青少年の家、障がい福祉部局や自立支援協議会の担当者が集まって作戦を練る。横の連携が必要。